

第3回神戸川の潮発電所水利使用に関する調整会議 議事要旨

- 【日 時】 平成25年5月29日（水）10時00分～11時00分
【場 所】 出雲市役所 1階 くにびき大ホール（出雲市今市町70）
【出席者】 第3回調整会議出席者名簿のとおり
【傍聴者】 44名

【議事内容】

- 1) 前回議事内容の確認
- 2) 水利使用更新に関する考え方（中国電力説明の要旨）
 - ①基本的な考え方
 - ・低炭素社会の実現に向け、水力発電は重要。河川環境の保全・維持も同様に重要。河川環境と再生可能エネルギー利用の両立を目指す。
 - ・専門委員会の報告、調整会議での意見を踏まえ、来島ダムからの増放流等による河川環境改善の検証に前向きに取り組む。
 - ・志津見ダムから乙立取水堰までは、支川等からの流入量が少なく、「減水区間」があることを踏まえると、できるだけ早く改善するよう諸施策を実施したい。
 - ②当面の対応
 - ・窪田・乙立両発電所の「減水区間」については、できるだけ早く、取水堰の角落としの調整等により、魚道流量を増加し、今後、来島ダムからの増放流量が決まれば、増量分相当の水量を流下させる措置を取りたい。
 - ・魚道の流量増については、神戸川漁協とも調整の上、6月初めからでも実施したい。
 - ・なお、来島ダムからの増放流相当分の流下については、増放流の決定後ということになるが、当面の対応として、試験的に来島ダムからの自主放流を進めることも前向きに検討したい。
 - ③環境対策
 - ・先日の「志津見ダムからのフラッシュ放流」については、各種の協力をしたところ。今後とも国交省と調整の上、協力していく考え。
 - ・水質調査は、国・県の調査と同調した調査を継続して実施していく。水質に対しては、調査結果を踏まえ対策についても検討していく。

（説明に対する首長等発言）

- 出雲市長
- ・河川環境を維持・保全した上で発電することが基本。
 - ・区間毎の最低限の流量を流すことを基本に流量が設定されているが、河川全川にわ

たる自然な流れの回復にどの程度の水量が必要なのか、また、治水ダムである志津見ダムの存在による流況安定化などの影響を前提に、いかに河川環境をよくしていくかという視点から、可能な限りの放流増の実施ができるように検討を求める。

- ・地元関係者の意見にもあったように、調整会議での結論を待つことなく、自主的な放流と、「減水区間」対策等、できるものから、すみやかな実施を求める。
- ・フラッシュ放流も含め、必要もしくは、考え得る当面の河川環境改善策についても具体的に詰めていく必要がある。

○飯南町長

- ・分水はやむを得ないと考えているが、河川環境の改善に向けできるだけ放流量は増やしてほしい。十分な検討をしていただきたい。

○県土木部長

- ・専門委員会から、「減水区間」対策を指摘されており、地元意見等も踏まえて、十分な検討と対策をとってほしい。
- ・水利使用量や使用期間、河川環境の保全等についてできるだけ早く具体的に提示し、丁寧な説明が必要。
- ・自主放流や当面の「減水区間」対策等、関係者と協議し、早急に進めてほしい。自主放流は、関係者としてしっかり調整し、改善効果の検証についてもしっかりとやってほしい。

(中国電力からの回答)

- ・河川環境の維持・保全は大変重要な課題と認識。今後も、来島ダム、潮発電所の運営を通じて河川環境と再生可能エネルギー利用の両立に取り組む。
- ・河川全体にわたる自然の流れの回復には、来島ダムからの増放流やフラッシュ放流を組み合わせた効果的な対応が必要。来島ダムの季節的な貯留や放流など運用を含め、志津見ダムと調整・連携しながら、具体的な放流量を検討。
- ・地元からの大変強い要請であり、また近々アユのシーズンを迎えるということもあり、当分の間、設備最大の「 $2\text{m}^3/\text{s}$ 」を来島ダムから試験的に自主放流する。志津見ダムから自主放流量をスルーしてもらう必要があり、国土交通省との調整や、神戸川漁協との調整を早急に行う。6月からでも実施したい。

3) その他

①県に対する意見・要望について（事務局）

- ・再生推進会議及び、大社湾等の漁業関係者からの要望や意見についての対応状況について説明。

②志津見ダムフラッシュ放流について（国交省出雲河川事務所）

- ・実施概要（４月１７日）についての説明。
- ・浮泥や枯れ葉等に付着した藻類等が掃流を確認。
- ・水質や付着物についてデータをとりまとめ中。分析出来次第公表したい。

③その他意見について

○出雲市長

- ・神戸川は、国と県の管理区間が混合しているが、将来を見据え、治水、環境の面からも、一元管理が望ましい。神戸川全川にわたる直轄管理をお願いしたい。

4) 調整会議の今後の進め方

- ① 事務レベル（幹事会）で、これまでの議論等を踏まえ、論点を整理。
- ② 中国電力においても、これまでの議論等を踏まえて使用水量、使用期間等について具体的に検討。
- ③ ①、②を踏まえ、できるだけ早期に調整会議で議論。